令和８年度第２回焼津市認知症対策連絡会議　議事録

１　開催日時　令和８年９月 29 日（火）18 時 30 分～20 時 00 分

２　開催場所　焼津市役所本庁舎１階　会議室１Ｂ

３　出 席 者

（委員）

新井恵子委員（会長）、豊山弘之委員（副会長）、深沢直樹委員、天野雄一郎委員、
五十右直委員、小林一之委員、林綾子委員、内野紅委員、小谷幸代委員、
高田琴恵委員、酒井直樹委員、夏苅直己委員

（事務局）

飯塚隆晴高齢者福祉課長
※以下、地域包括ケア推進担当
大畑敦志主幹、松村美代子主査、後藤翔太主査、萩原葉子看護師
※以下、地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）
北部：篠宮聡志、中部：竹下千穂、南部：五十右億子、山田隆弘、大井川：桶川麻保
※以下、認知症疾患医療センター
焼津市立総合病院：村松眞智子、やきつべの径診療所：寺坂久仁子
※以下、チームオレンジコーディネーター
望月隆仁

４　内　　容

開会

（司会より開会宣言）

挨拶

（会長挨拶）

協議事項　（１）認知症施策推進計画の策定について

（事務局より認知症施策推進計画の策定（第１節～第３節）について説明）

会長　　ただ今の説明に関して、お一人ずつご意見をいただきたい。

委員　　非常に興味深いと思ったのは、市民アンケート調査結果において、「認知症を予防できる」と回答した方が６割弱いることである。とても前向きだと思う。他市町との比較ができると、さらに良いと感じる。

委員　　私は、大変なのは本人よりもその家族等ではないかと思う。ご家族への支援は、相談体制の整備だけでなく、もう少し取り組めることがあれば良い。全体的に問題はないと思うが、ご家族や支援機関等に重点を置いていただけると良いと思った。

委員　　私も、よくできていると思う。不安だと感じていた部分も、取組が細かく追加さ

れている。認知症の人の数も年々増えていると思うが、支え合いやご家族についてもきちんと記載されており、良いと思う。

委員　　施策の体系については、整理いただいたもので良いと思う。特に「新しい認知症観」については第６章の冒頭でも位置づけていただいているが、非常に良いのではないかと思う。市民アンケート調査結果の「認知症になったら、それまで好きだったことなどを楽しめなくなると思うか」「認知症になったら、仲間や知り合いと交流できなくなると思うか」に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が５割くらいだった。もう少し割合が多いかと思っていたが、認知症になっても交流や楽しみを持つことを諦めていない人が増加している印象を受けた。そういった中で、認知症施策推進大綱や「新しい認知症観」をもっと積極的に発信していただき、また発信についても、チームオレンジの活動など焼津市の中で取り組んでいる具体的な活動と紐付けて発信していくと良いと思う。「新しい認知症観」を広げていくことがこのプランの肝になっていることが非常に良いと思ったので、ぜひこの方向で進めてもらいたい。

委員　　やはり「新しい認知症観」という言葉を使っていることがすごく良かったと思う。私は日々、認知症の人と家族介護者との関わりがある中で、認知症の人とその家族の声を反映させる計画にすることに意義があると思う。特にひとり暮らしの認知症の人や、老老介護をされている高齢者世帯の認知症の人などを、近所や親族、家族へつなげていくことが大事な部分ではないかと思う。この施策の中にある役割も含めて、協力できるところは皆様と協力していきたい。皆があったかい気持ちになれるプランということで、良いと思う。基本理念も良いと思う。

委員　　基本理念の「認知症を正しく理解し」という記載を見て、私自身、事業者でありながら、認知症を正しく理解できていない部分もあるのではないかと反省した。市民に認知症を正しく理解してもらうのはとても難しいことだと改めて感じている。その上で、保健・医療・介護・福祉の連携について記載してくださっているので、事業者としても、研修や勉強会なども含めて取り組んでいかなければならないと思う。市民だけでなく、事業者も認知症に対する正しい理解を改めなくてはならないと感じた。

委員　　基本理念について、言葉がまとまっていてわかりやすく、伝わりやすいのではないかと感じた。私が普段認知症の人と関わっている中でも、やはり本人の声が大事だと思っている。基本施策３にもあるとおり、社会参加の機会は様々な可能性を引き出していき、本人がやりがいを持って取り組める機会をつくることが大事だと思う。また先ほどの意見にもあった、ご家族の視点についても同感である。市民アンケート調査結果でも相談窓口がわからないというご意見があったので、地域の中の身近なネットワークである近所も含めた関係性づくりが大きいと思う。基本理念で「みんながチーム」が先頭に位置づけられていることも踏まえ、本人・家族を含めた連携作りが大事だと感じた。

委員　　市民アンケート調査結果の中で気になったのが、「認知症に関する相談窓口の認知度」という設問。確かに割合は上がっているが、それでもまだまだ少ないと思う。認知症に限らず、病気になったら病院に行くことと同じような感覚で、困った

ときの相談先が、まだ把握されていないと思った。タクシーの運転手をしている知り合いが高齢のご夫婦を乗せた際、どこでも良いから老人ホームへ連れて行ってほしいと言われたと聞いた。高齢者施設を探すことに正解や間違いはないとは思うが、例えばそのご夫婦が地域包括支援センターに相談していれば、早期に必要な関係機関につながる場合もあったのではないかと思う。タクシーの運転手も、困ったときに助けてもらえる場所をご夫婦に伝えられていたらどのようになっていただろうか、などと色々考えさせられた。これは焼津市内で、身近に起こっていることである。認知症かもしれないと思ったときに、各地域の身近なところに相談できる場所があることをもっと周知できる機会を設けられるよう、地域包括支援センターの愛称を公募するなどの具体的な取組ができたら良いと思う。

委員　　最近、私の所属している家族会に２組の男性介護者から相談があった。いずれも妻が認知症であったが、相談内容は異なり、一人は妻に寄り添いすぎることで負担を感じているという相談、もう一人は自分の時間を持てないことへの負担についての相談であった。家族会につながることで、負担の軽減になればと期待している。市民アンケート調査結果を見ると、認知症に関する相談窓口の認知度が低く、どこでどのような相談ができるのかもわからないのだと思う。病院で認知症と診断された際に、相談窓口を案内する小冊子を渡したり、相談の機会につなげたりするなど、医療機関から相談先へつながる仕組みがあると良いと思う。複数の関係団体について、相談できる日時や内容などを比較し、その家族の状況に合ったところを選べることは大切だと思う。私たちの家族会は、実際に認知症の介護を経験した人の話を聞けることが特徴であり、ヒアリング調査でも経験者の話を聞きたいというニーズが高いとされている。専門知識を有する人から話を聞くことも重要だが、実際に経験した苦労や工夫を聞くことは、ご家族の心に響くものだと思うので、改めて家族会の必要性を感じた。ご家族への支援については、支援体制の構築などの表現はあるものの、具体的な施策が十分に示されていない。認知症の人が自尊心を保ちながら周囲の人と関係を築き、安全で幸せに生活していくためには、ご家族や介護者の支えも必要不可欠である。ここ数年、本人の意思を尊重することに重きを置きすぎて、その後ろにいるご家族や介護者の気持ちが置き去りにされていると感じる。本人と同じくらいの比率で、ご家族への支援についても考えていただければと思う。

委員　　施策を文章としてまとめることは大変だと思うが、全体としてよくまとまっていると思う。具体的な案ではないが、気になった点を３点ほどお話しさせていただく。まず、市民アンケート調査結果について、どの年代の人がどのような回答をしたのか。これでは、年代別に整理して、その年代に応じてどのようなアプローチが必要なのかがわかりづらいと思う。次に、基本施策２の「地域における相談支援体制の整備」と、基本施策６の「相談体制の整備」について、もう少しわかりやすく分けられないかと思う。最後に、他自治体の取組で、「認知症の人に何をしてあげるか」ではなく、「認知症の人と何ができるか」という、For Patient ではなく With Patient という考え方が記載されていたことが印象に残っている。そのようなイメージを、この計画にも少し取り入れられると良いと思う。

委員　　全体としてはよくできていると思う。現行のほほえみプランと比較する中で、いくつか気になった点があるのでお話しさせていただく。まず、基本施策４「認知症の人の意思決定支援と権利擁護」は重要であり、成年後見制度や虐待予防などが具体的な方策として挙げられているが、現状と課題の欄には「認知症の人の中には、成年後見制度をはじめとする意思決定支援や権利擁護を必要としている場合が多くあります。」とあり、これでは成年後見制度と意思決定支援が同じものであると捉えられてしまうと思う。意思決定支援と権利擁護が成年後見制度であるという誤解をされてしまうと思うので、表現を修正したほうが良い。同じく現状と課題の欄の「また、その支援についても、認知症本人に意思決定能力があるという前提に立って行うことが求められています。」という表現についても、本人の意思決定能力が低下している中で支援していく必要があるため、これでは矛盾しているように感じる。

次に、基本施策５の主な取組「認知症の予防及び早期把握・支援の推進」については、特定健診などを通じて早期に認知症の可能性を把握することや、施設職員が本人の状態を把握することが重要であるが、現在の事業内容ではその部分の記載が少なく、もったいない。特に特定健診についてはウェイトを置くべきだが、記載が弱いように感じた。

最後に、基本施策６「認知症に関する相談支援ネットワークの構築」について、現時点でネットワークはあると言えばあるが、ないと言えばないようなものである。取組の方向性では「認知症に関する相談窓口を整備するとともに、広く周知することで利用促進を図ります。」とあるが、具体的にどの窓口を指しているのか、市の窓口だけなのか、地域包括支援センター等も含むのかが分かりにくい。また、現在ある窓口を周知するということなのか、新たに窓口を再編していくのかについてもわからないので、もう少し具体的になると良いと思う。

会長　　一部のご意見については、この後、事務局から改めて説明をいただきたいと思う。今回説明いただいた内容については、概ねご理解いただけたものと思うが、家族への支援や相談支援ネットワークについては、もう少し整理したほうが良いとのご意見もいただいた。これらの意見を踏まえ、事務局でも改めて検討しながら進めていただければと思う。全体としては、概ねこの方向性で進めて良いというご意見だったと認識している。本人やその家族、専門職、地域の人などの誰かが、どこかだけが担うのではなく、全体で連携しながら進めていくことでより良い内容になるものと考えている。続いて、「あったかオレンジプラン」のイメージ及び内容について、事務局から説明をお願いしたい。

（事務局より認知症施策推進計画の策定（第４節）について説明）

会長　　ただ今の説明に関して、ご意見をいただきたい。

委員　　認知症サポーター養成講座について、子どもに向けた実施の充実が図られていることはわかる。難しいとは思うが、これから認知症の人の介護をする 30～40 代の市民を対象とした講座も増やしていったらどうかと常々思っている。講座の参加者には高齢者が多く、高齢者に認知症とは何かということを知っていただくこ

とも大事だが、30～40 代の次世代の介護者になる方に受講していただき、相談窓口や市の取組を周知することも大事ではないかと思う。

次に、キャラバン・メイトの育成について、令和７年度のキャラバン・メイト登録者数は 155 人であるにも関わらず、実際に認知症サポーター養成講座の講師をしていただける方は多くて 20 人であり、登録はしていても講師をしていただけない人が多い。そういった方をそのまま育成するのではなく、ボランティアである認知症サポーター養成講座の講師になってくださる人に向けて手厚い支援をするべきだと思う。講師をしていただけないキャラバン・メイトを育成しても意味がないと思うので、もう少し内容を精査して、キャラバン・メイトの質を高めていただきたい。

委員　　目標値の設定はどのように考えて決めているのか。

事務局　　目標値については、令和９年からの３か年の方針を決めていく中で、計画の１年ごとの予算や３年間の事業費に関わってくるため、そういったところも踏まえながら、これから事業一つひとつについて精査し、目標値を設定していく。目標値を設定した際には、どのような考え方で設定したのか説明できるようにしたいと考えている。

委員　　現状の焼津市の高齢者数と認知症の有病者数を参考に、相談件数等の目標値を割り出すという考え方が良いのではないかと思う。事業の予算の問題もあると思うが、この目標値を達成するためには何をするかということを考えていかなければならないと思う。

事務局　　おっしゃるとおりである。今後の高齢者や認知症の人の数値についてどこまで追えるかにもよるが、そういったところも踏まえながら相談件数を見込み、事業計画に反映させていきたいと考えている。

委員　　言葉や紙面の問題ではあるが、基本施策２にあるチームオレンジやおみね輪プロジェクトは、相談支援体制の整備にリンクしにくいと思う。相談体制の整備は基本施策６がメインなので、そこを整理したら良いのではないかと思う。また、基本施策６の結びつく事業「家族等への支援（認知症家族会との連携）」を主な取組として一つの項目に大きくして、そこに具体的な取組を紐づけるのはいかがか。家族への支援は国が示している主な施策に入っているので、これを結びつく事業の一つに置いておくよりも良いのではないかと思う。最後に、金融機関との連携については、金融機関が認知症の人のことを把握すると、家族がお金を管理できなくなるケースが発生しないかと懸念しているので、慎重に対応したほうが良いと思う。

委員　　おみね輪プロジェクトは以前より取り組んでいるが、加入者数がなかなか増えていかないのは、何か施策の内容に不備があるのではないか、もしくは周知の方法に不備があるのではないかと気になっている。やり方を見直してみてはいかがかと思う。

事務局　　おみね輪プロジェクトについては、警察署と地域包括支援センターが連携しており、すぐに警察署へつながるので、このまま推進して良いという方向となっている。周知方法について検討し、加入者の拡大に向けた工夫をしたいと考えている。

委員　　おみね輪プロジェクトは市の取組として良いとは思うが、実際にご家族から話を聞いていると、おみね輪プロジェクトに加入するよりも、徘徊高齢者にＧＰＳをつけるといった方法をとっているご家族のほうが多かった。実施内容を見直していただくことも考えてはどうかと感じた。

会長　　委員の皆様から具体的なご意見を多くいただいたので、それらのご意見を事務局でご検討いただき、委員の皆様からご理解いただいたということで進めていただければと思う。事務局には、いただいたご意見を参考に内容を精査し、計画がより実効性のあるものになるよう策定を進めていただきたい。

以上をもって、本日の議事は全て終了とする。進行を事務局にお返しする。

事務局　　次回開催を令和９年１月に予定しているが、詳細については追ってご連絡させていただく。なお、次回開催までの間に、目標数値等も含めて、計画の内容をさらに具体化したものを書面にて確認いただければと思う。

閉会